

科学技術関係施策 概要調べ

資料2-4-2

		整理番号	
1 所管(省)	文部科学省		
2 施策名	ゲノムネットワーク研究の戦略的推進		
3 要求(要望)額 【百万円】	分類	16年度要求(要望)額	15年度予算額
	科学技術振興費	8,000	-
	その他の一般会計	0	-
	特別会計	0	-
	(合計)	8,000	-
4 「平成16年度の科学技術に関する予算、人材等の資源配分の方針」との対応等	<p>【主たる該当事項】ラ(i)① 【従たる該当事項】ラ(iii)① 競争的研究資金 : () ※ 一部競争的に実施 経済活性化のための研究開発プロジェクト : ()</p>		
5 施策の概要	<p>ゲノム機能等の集中的解析と個別生命現象の解析を行うとともに得られた成果を統合データベースとして整備し、標的とした疾患等の原因遺伝子から発現に至るまでに関係する遺伝子やタンパク質の相互作用を生体分子の統合的なシステムとして明らかにする。</p>		
6 施策の必要性と国が関与する理由	<p>ヒトゲノム配列の決定等により、ゲノム構造に関わる基盤的データが体系的に蓄積整備されつつある中で、ゲノム研究の方向性は世界的に機能解析へと向かって本格化しつつある。ゲノムネットワーク研究の成果は、産業構造の改革及び国民の健康的な生活に重大な影響を及ぼすことから、我が国としても国際的動向を睥んだ戦略的な取り組みを実施する必要がある。</p>		
7 研究計画(目標、期間、投資計画等)	<p>①生命現象の解明に必要な基盤データ創出のためのゲノム機能や生体分子相互作用の集中的機能解析、②重要な意義を有する個別生命現象の生体分子ネットワークの解明、③創出したデータを統合する統合データベースの構築、④次世代ゲノムネットワーク解析技術の開発を、平成16年度から5年間で実施する。</p>		
8 推進体制	<p>ゲノム機能等の集中的解析と個別生命現象の生体分子ネットワーク解析によって得られた知見を統合し、お互いにフィードバックすることが可能な研究体制を構築して、効果的な研究開発を推進する。</p> <p>具体的には、研究全体のコーディネート・推進を図るための推進機関を設置し、プロジェクトの推進方策の検討、プロジェクト内での迅速なデータの流通等に資する。</p>		
9 他省との連携	<p>個別生命現象の生体分子ネットワーク解析については、関係省の研究機関においても実施することを検討</p>		

<p>10 期待される成果、波及効果</p>	<p>得られた研究成果がライフサイエンス分野における研究開発の共通データとして使用されるようになる。 また、疾患等の原因遺伝子から発現に至るまでに関係する遺伝子やタンパク質の相互作用が明らかになることにより、新薬の効果的な創薬に資する。</p>
<p>主な成果、目標達成度 【継続】</p>	
<p>11 整理・合理化・削減の内容</p>	<p>本施策は、我が国のゲノム研究を一層推進するため、我が国の研究資源等の強みを活かしつつ実施するものであり、ゲノム機能等の集中的解析については、国際的な優位性を持ち、必要十分なリソース、解析技術、設備、人材を持ち、データを提供する能力と意欲がある機関において実施する必要がある。 また、一部のゲノム機能解析、次世代ゲノムネットワーク解析技術開発、個別の生命現象の生体分子ネットワーク解析においては、提案公募方式により研究課題を採択し、その成果を適切に評価する。</p>
<p>12 事前評価(新規)、中間評価(継続)の有無とその内容</p>	<p>文部科学省政策評価基本計画に基づく評価を実施。また、研究目標・内容や実施体制について、科学技術・学術審議会研究計画・評価分科会で外部評価を行う予定。 またプロジェクト全体の推進機関を設置して随時評価を行うとともに、更に科学技術・学術審議会研究計画・評価分科会ライフサイエンス委員会等の、他領域を含む有識者の評価を受けることにより、検証をより確実なものとする。</p>